

令和2年度 飯塚市事務事業評価シート

令和 3 年 5 月 10 日 作成

事務事業名	デジタルミュージアム整備事業	外部評価の状況	事務事業No.	573 - 9
		なし		

1. 基本情報

担当部	担当課	担当係	作成者職名	作成者氏名	所属長職名	所属長氏名
教育部	文化課	文化財保護推進室	主任	仲村慎太郎	課長	坂口信治
施策体系	総合計画	政策	5	教育・文化		
		施策	7	歴史的・文化的遺産の保護と活用		
		基本事業	3	教育・観光への活用の推進		
	その他の計画	個別計画	なし			
根拠法令・条例・要綱等	文化財保護法 福岡県文化財保護条例 飯塚市文化財保護条例					
事業開始年度	令和元年度	事業終了年度	令和4年度	事務事業類型	ソフト事業	
実施手法	一部委託	補助金等の支給	なし	実施計画期間	令和元年度～令和4年度	

2. 事務事業の概要及び目的（決算成果説明書と運動）

概要	本市のまちづくり推進や郷土愛醸成のため、地域資源を活用し、観光・文化振興および学校教育等の連携に戦略的に取り組むもの。デジタルミュージアム（デジタルアーカイブ・遺跡情報システム・文化財の3Dコンテンツ・郷土学習コンテンツ）の整備を行う。					
対象	働きかける相手・もの	市民をはじめ、教職員、児童・生徒、観光客、研究者等				
手段	方法・働きかけ（活動指標）	デジタルミュージアム整備事業のコンテンツを整備し、効果的な広報を行う。				
意図	対象をどのようにしたいか（成果指標）	デジタルミュージアムのアクセス数を増加させる。市民をはじめ、教職員、児童・生徒、観光客、研究者等に対し、市の文化財や歴史・文化に対する認識を向上させる。				

3. 活動指標（決算成果説明書と運動）

指標名	単位	指標の説明（算式等）	前年度実績	本年度実績	次年度見込
デジタルミュージアム整備コンテンツ数	件	デジタルミュージアム内の整備コンテンツの数	2	1	1
広報	回	記者クラブへのレクチャー数	1	1	1

4. 成果指標（決算成果説明書と運動）

指標	単位	達成目標値	前年度実績	本年度実績	次年度見込
デジタルミュージアムアクセス数	件	25000	6000	25000	64000
説明	方向性	達成目標年度	実績	11603	63080
	増加	毎年度	達成率	193.38%	252.32%
指標	単位	達成目標値	前年度実績	本年度実績	次年度見込
説明	方向性	達成目標年度	実績		
			達成率	#DIV/0!	#DIV/0!
指標	単位	達成目標値	前年度実績	本年度実績	次年度見込
説明	方向性	達成目標年度	実績		
			達成率	#DIV/0!	#DIV/0!

5. 事務事業実施にかかるコスト（決算成果説明書と運動）

予算科目・事業	会計 1 一般会計	款 10 教育費	項 5 社会教育費	目 4 文化財保護費			
	大 2 文化財保存活用事業費	中 2 デジタルミュージアム整備事業費【政策】	他 0 事業				
投入人員 (当該事務事業に対して1年間に投入した人員)	区分(R1まで)	(R2以降)	前年度実績実績(千円)	本年度実績(千円)	増減理由(10%以上の場合)	次年度予算(千円)	
	正職員	正職員	0.41 人 3,280	0.41 人 3,231	事業内容の違いによる減。 【前年度】 ・デジタルアーカイブ、遺跡情報システムの整備事業 【本年度】 ・旧伊藤邸3Dパノラマビュー作成事業	0.41 人 3,231	
	任期付職員(保育士)	任期付職員(保育士)	0.00 人 0	0.00 人 0		0.00 人 0	
	任期付職員(CW・水質)	任期付職員(CW・水質)	0.00 人 0	0.00 人 0		0.00 人 0	
	再任用フル	再任用フル	0.00 人 0	0.00 人 0		0.00 人 0	
	再任用短	再任用短	0.00 人 0	0.00 人 0		0.00 人 0	
	嘱託職員	1級フル	0.00 人 0	0.00 人 0		0.00 人 0	
	臨時職員	1級パート	0.00 人 0	0.00 人 0		0.00 人 0	
		2級パート	0.00 人 0	0.00 人 0		0.00 人 0	
	人件費計(A)			3,280		3,231	
事業費	直接事業費(B)		11,181	1,078			6,063
	総事業費(A+B)		14,461	4,309		9,294	
直接事業費のうち の主な歳出内訳	印刷製本費		99,000	100		100	
	文化財電子データ整備委託		10,000	923		5,800	
財源内訳	使用料・手数料(受益者負担分)		0	0		0	
	国・県支出金		0	1,043		0	
	市債		0	0		0	
	一般財源		4,461	3,266		3,494	
その他(図書館振興財助成金)			10,000	0		5,800	

6. 事務事業の事後評価★

評価視点	評価項目	評価	評価の理由、または認識している課題を記載
妥当性 評価 (上位施策/ 成果)	市の関与の妥当性	妥当	市の文化財や収蔵資料を活用しているため妥当である。
	目的の妥当性	妥当	ソサエティ5.0の実現に向けて、市の文化財や収蔵資料をインターネット上に無料で公開することは、非常に有効である。
	対象(受益者)の妥当性	妥当	インターネット上に広く無料で公開しているため、特定の個人や団体に受益は偏っていない。
効率性 評価 (活動量/ コスト)	コスト削減・コスト効率化	余地なし	令和2年度では福岡県宿泊税交付金の採択をうけ、事業を実施し一般財源の割合を低く抑えられていると評価する。
	負担割合の適正化	適正	受益者の負担は生じておらず、助成金あるいは交付金を得て実施している事業のため適正である。
	手段の最適性	最適	ソサエティ5.0の実現を目指すなか、インターネット上に市の文化財や収蔵資料無料で公開することは時宜にそくしている。
有効性 評価 (成果/ 活動量)	目標達成度	達成	アクセス数は大幅に当初目標値を上回ったので、今後も継続してアクセス数の増加を図るよう周知や工夫に取り組む。
	上位施策への貢献度	貢献できた	成果目標を大きく上回った。
	事業継続の有効性	ある	短期的に成果目標を大きく上回っていることから、事業継続の有効性は認められる。さらに、コロナ禍のなか、外出自粛に貢献しながら利用者に対し郷土史に触れる機会を提供できており、今後も事業を継続していくべきと評価する。

7. 前年度評価時の計画と実績

前年度評価★		前年度記載した改善策(課題解決や改革・改善に向けて、予算を含めた具体的な方策)★	
評価区分	方向性	次年度以降に予算(コスト)を必要とせず、直ちに実施できる改善策	四季折々の魅力が詰まった写真を撮りためる。ロンドン大学のアンブレラシート(アンケート調査方法)を用いて、伊藤邸の企画展示のアンケート調査を行い下段記載の事業のフィードバックとする。
一次評価	②コストは現状維持し、成果を拡充	次年度以降に予算(コスト)増を必要とし、中長期的に実施する改善策	文化庁「令和2年度先端技術を活用した日本文化の魅力発信事業(文化資源活用事業補助金)」の交付を受けて、旧伊藤伝右衛門邸3Dパノラマビュー等の整備を行い、インターネット上で旧伊藤伝右衛門邸の効果的な魅力発信を行う。

前年度改善策に対する実績 ★ ※上記の改善策に対して今年度を実施できたこと、などを記入

文化庁「令和2年度先端技術を活用した日本文化の魅力発信事業(文化資源活用事業補助金)」は不採択となったが、その代わりに福岡県宿泊税交付金の交付を受け、旧伊藤伝右衛門邸3Dパノラマビューの整備を行うことができた。四季折々の魅力が詰まった写真を撮りため、その一部を旧伊藤伝右衛門邸3Dパノラマビューにおいて公開している。

8. 今年度評価における成果と課題(決算成果説明書と連動)★

【成果】	本年度は旧伊藤伝右衛門邸3Dパノラマビューを整備した。旧伊藤伝右衛門邸の国の重要文化財指定(答申)の日程に合わせるよう公開日を前倒し、重要文化財指定の答申と同時に広報したため、より効果的な情報発信ができた。アクセス数は成果目標値を大きく上回った。
【課題】	新規利用者の獲得のため、継続的な情報発信を行う。

9. 今後の事業の方向性と改善策

成果の方向性	拡充	④	②	①	評価区分	事務事業の方向性		
	現状維持						③	⑤
	縮小						⑥	
休・廃止	⑦							
コスト投入の方向性								

次年度以降の改善策(課題解決や改革・改善に向けて、予算を含めた具体的な方策)★

コスト(人・予算等)を必要とせず、ただちに実施できる改善策	継続的な情報発信や普及活動/教職員への広報・普及活動
コスト(人・予算等)を必要とし、中長期的に実施する改善策	図書館振興財団より採択された助成金を財源として、令和3年度は「炭都の記憶」データベースを整備する。「炭都の記憶」データベースとは、資料館所蔵の古写真を中心にインターネット上に公開するコンテンツである。一部の公開資料には地理情報を付与し街歩き等に活用できるよう工夫を施す。

評価変更理由	担当課は記載しない。
--------	------------